

対象年度		令和 2年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート										
事務事業名		各種運動普及推進事業						予算事業名		運動普及推進事業費				
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	健康増進法					
				04	01	03	2401	経常経費	根拠法令					
総合計画体系		1ともに支えあい，安心して暮らせる社会福祉の充実(保健・福祉)							事業の区分		主要事業			
		1-1健康で安心して暮らせる保健福祉の充実（健康・医療）									重点事業			
		①健康づくりの推進							担当課係等		健康増進センター			
2健康な身体づくりの支援							健康増進係							
事業期間		継続（平成 8年度～ 年度）												
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】							
地域の中で市民が運動普及推進員と共に運動することで運動の意義や楽しさを実感し，運動を通した健康づくりに取り組む事ができる。							健康日本21(第二次)においても，市民の健康保持・増進及び生活習慣病予防のため，大きな柱として「身体活動の増加」，「健康な食事」，「禁煙」を推進している。							
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】							【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】							
市民向けの運動教室を開催し，心身の健康づくりのための運動を普及啓発する。 ・リズムエクササイズ教室実施 ・ステップ運動教室実施 ・依頼による出前運動教室 ・その他健康運動教室実施							20歳以上の市民 【事業をとりまく環境の変化】 第2次健康日本21においても，市民の健康保持・増進及び生活習慣病予防のため，大きな柱として「身体活動の増加」，「健康な食事」，「禁煙」を推進している。							
【令和 2年度 事業内容】				【令和 3年度 事業内容】				【令和 4年度 事業内容】						
・リズムエクササイズ教室実施 ・ステップ運動教室実施 ・依頼による出前運動教室 ・その他健康運動教室実施				・リズムエクササイズ教室実施 ・ステップ運動教室実施 ・依頼による出前運動教室 ・その他健康運動教室実施				・リズムエクササイズ教室実施 ・ステップ運動教室実施 ・依頼による出前運動教室 ・その他健康運動教室実施						

■事業費

		H30年度		R01年度				
財 源 内 訳	国	庫	支	出	金	0	0	
	県		支	出	金	0	0	
	地		方		債	0	0	
	そ		の		他	0	0	
	一		般	財	源	13	40	
歳入計（千円）		13		40				
歳 出 内 訳	節（番号＋名称）		金額（千円）		金額（千円）			
	11 需用費		13		40			
歳出計（千円）（A）		13		40				
伸び率（％）				207.69				
備 考	総合計画49ページ 予算書103ページ							

平成30年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		H30年度	R01年度	R02年度
活動 指標	各種教室等の延べ実施回数	回	目標	120.00	120.00	120.00
	地域で運動教室（リズムエクササイズ教室・ステップ運動教室・出前運動教室・その他健康運動教室）の延べ実施回数		実績	126.00	0.00	0.00
	運動普及推進員協力者延人数	人	目標	400.00	400.00	400.00
	運動普及推進員が主体となる運動教室への推進員参加者数		実績	329.00	0.00	0.00
成果 指標	ステップ運動教室延べ参加者数	人	目標	85.00	90.00	90.00
	手軽にできる有酸素運動である、ステップ運動を多くの市民に普及をする年間4回開催する。その延べ参加者数		実績	56.00	0.00	0.00
	リズムエクササイズ教室参加者数	人	目標	800.00	850.00	850.00
	教室の中でも、予約不要で気軽に参加できる、リズムエクササイズ教室を21回実施した。その延べ参加者数		実績	665.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	市民の健康を維持・増進する機会を提供し、運動を推進することは重要であり、必要性は高い。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	健康日本21にも地域における運動の推進とあり、市民の健康づくりを支援する側として妥当である。
	手段の妥当性	A 妥当である	現在の手段が一般的であり、妥当である。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	推進員の中でもボランティア意欲は異なり、また休会者もいることから活動回数にはばらつきがある。
公平性	受益者の偏り	B どちらとも言えない	教室やイベントには多くの市民が参加するが、リピーターの参加者も多く、全ての市民に伝達することは困難である。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	教室によっては参加者数は横ばいだが、開催する運動教室は市民に定着しつつある。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	推進員の運動普及人数は増加しており、教室の内容や幅は広がっている。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
開催する運動教室は好評であり、市民に定着しつつある。しかし、30～40歳代の若い世代の参加者が少ない現状にある。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
市民の健康づくりを支援する運動普及活動は求められており、今後も継続して市民のニーズにあった教室を開催していく。			

■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 運動普及推進員が地域市民に対し各種教室を開催することで、市民の健康保持・増進の一助となっており、今後も推進員活動を継続的に後方支援する。また、他課における運動関係のボランティア活動について把握し、市全体として継続的に運動普及に取り組む必要がある。
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了
企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。